

．地域資源のテキスト化に関する作業の進捗状況

担当部署：観光商工課・農林課・水産課・里海推進室

○取り組み状況

(1)「きんこ」のテキスト化について

きんこのテキストは平成28年3月に完成したが、このテキストを活用して新たな商品化を進める前提として、安定した生産体制を構築することが必要であるという問題が明確になった。このため、きんこの増産を目的に、芋の栽培から加工までを実践することができる「きんこ塾」を下記のとおり開催し、新たなきんこ生産の担い手の増加を図っている。

5月19日：6名の塾生を受入れ、きんこ塾を開講。きんこ塾の概要説明後、三重大学生物資源学部教授による芋の栽培についての講義を実施。

6月 6日：阿児地区圃場で、畝立て、マルチ張作業を実施。

6月 8日：芋の館きららで、機械による苗植え作業見学と苗取り作業を実施。

6月10日：阿児地区圃場、志摩地区圃場で苗植え作業を実施。

7月 1日：三重大学生物資源学部教授による病虫害防除対策についての講義を実施。

8月 3日：三重県伊勢保健所衛生指導課による食品衛生法関連について講義を実施。

9月 6日：立命館大学インターシップ生(2名)を受入れ、塾生と共に三重大学生物学部教授による種イモの残し方や芋の生育についての講義を実施。

現在、塾生により各担当圃場で圃場管理を行い、三重大学生物資源学部教授の指導のもと、生育状況の確認を行っている。

(2)「アカモク」のテキスト化について

アカモクの資源分布や持続可能な漁獲方法などのデータの収集

志摩市と三重外湾漁業協同組合、三重県水産研究所、伊勢農林水産事務所が協力し、引き続き生息範囲や資源量の調査、試験操業を継続することや漁獲方法、保管方法など「生産体制」の見直しを行った。

既に試験操業を行っている浜島、波切、船越、安乗の4地区以外に布施田、甲賀、志島の3地区からも参加の申し出があった。

アカモクの成分分析

栄養面・健康面をクローズアップした内容のパンフレットを作成するため、「6次産業化調査研究業務委託」契約を締結。立命館大学との共同研究で、アカモクの成

分分析を実施。

アカモクの需要に関するマーケティング調査

志摩市商工会から情報提供のあった業者へ「アカモクの需要量調査」を行い、需要量が予定生産量を上回るアンケート結果となった。

これまでの取組の成果として、

乾燥アカモクが志摩ブランドの認定を受けたことにより、情報発信の幅が増え、需要が喚起されている。

伊勢市外宮前広場で開催された「うましくに伊勢シェフクラブ主催」の食の祭典「饗宴」の参加店がアカモク入りのソーセージを販売、津駅のラーメン店の麺や市内の旅館で提供されるうどんにアカモクの粉末が添加されるなど民間でも少しずつであるが、アカモクが地域の食材として認識され始め、需要が増えていることを確認。

今後の取組み

(1)「きんこ」のテキスト化について

商品開発などにより販路の拡大を図る前提となる生産量の確保に向け、生産者の高齢化が進んでいるきんこ生産の担い手の増加を図ることを目的に、関係団体等と連携しながら、「きんこ塾」の取組を継続し、生産者の確保を図っていく。

(2)「アカモク」のテキスト化について

テキスト化に向けたデータの蓄積を継続しながら、12月14日から16日まで、東京ビッグサイトで開催されるアグリビジネス創出フェアに参加し、志摩の未利用資源として広く情報発信をする予定。

(3) 志摩ブランドについて

平成28年度の志摩ブランド認定を行い、商品一覧のパンフレットを作成。

アンケート調査を実施し、志摩ブランド認定商品の生産・販売状況などの把握。

志摩ブランド認定事業者と協議を行い、商品販売の現状把握や課題の解決に向けた検討と支援を行う。